

## D—8 家政学の目標

美作短大 額田 清

1. 家政学の研究の目標を明らかにし、もって家政学の進歩を促進する。

2. 家政学に関する諸家の見解を調査し、またこれを他の学問と比較することによって検討を加え、家政学の進むべき道を求める。

3. 家政学は応用科学（技術学）であり、家庭の福利の増進を目的とする、とするのが現在多くの識者の共通した意見のようであるが、応用科学と見るのは“家庭とは何か”という根本的な問題が軽視されている感じを受ける。家庭の本質をきわめないでにおいてその福利増進を追求することは、極端に言えば、化学反応の mechanism を知らずに金を作り出そうとするようなものである。家政学はまず家庭そのものの研究から出発しなくてはならない。そこで家政学の領域、目標を次のように設定する。

- ① 家庭構造の研究 } 基礎家政学
- ② 家庭行為 " } 基礎家政学
- ③ 家庭生活 " 応用家政学

（①～③の名称は仮称であり必ずしも適切とはいえない。）

①②は家庭を構成する要素相互の関係を探究するもの

で、①は夫・妻、親・子がいかなる結合あるいは対立状態にあるかを明らかにし、②はその結合あるいは対立を強めあるいは弱める因子の何かを求めようとするものである。③は家庭と家庭以外の要素との関係を探究するもので、現在の家政学の主流をなしている裁縫調理等が含まれる。